



↑ 16. 外川神社
「お仙人様」の名で親しまれ子供の虫封じに効き目があるといわれた。ご神木のケヤキが見事である。ご祭神は日本武尊。



↑ 13. 保土ヶ谷本陣跡
宿場の中でも立派な建物である本陣は、代々蒯部家がつとめた。現在は当時を偲ばせる門や土蔵が残っている。明治3年(1870)に蒯部に改姓し、現在も在住されている。



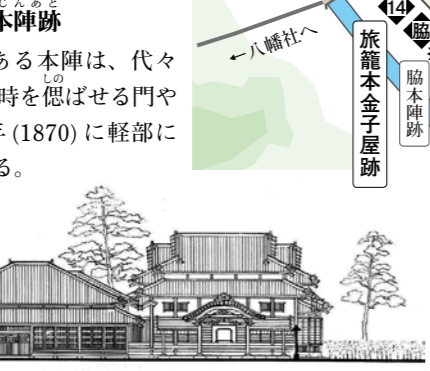
10. 金沢横町の石碑 (道標) →
金沢や鎌倉への分岐点。角に道案内の石碑が4基並んでいる。その中に保土ヶ谷の俳人・其爪の句で「程ヶ谷の枝道曲がれ梅の花」と杉田梅林への道を示す碑がある。



↑ 14. 旅籠本金子屋跡
格子戸や通用門が当時の旅籠の雰囲気を伝えている。現在の建物は明治2年(1869)の建築。



↑ 15. 大仙寺
開山は平安時代中期といわれ区内で最も古い寺の一つ。本陣をつとめた蒯部家の菩提寺であり、旧東海道からは山門をくぐり参道が続いていた。



8. 大蓮寺 →
開山は江戸時代初期。日蓮上人が泊まった家を法華堂に改修したのが寺の始まりのこと。家康の側室おまんの方お手植えのざくろの木がある。

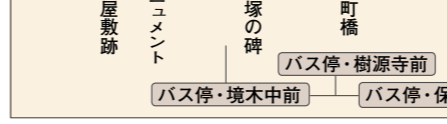
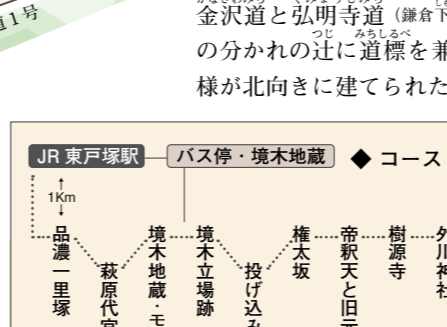
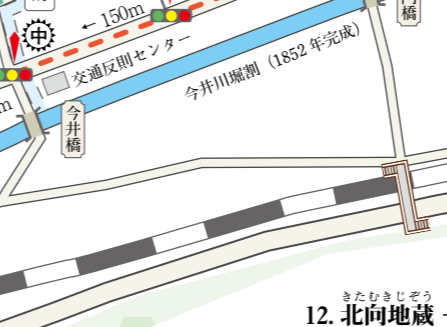


← 6. 見光寺
開山は江戸時代初期。保土ヶ谷の住人で熱心な浄土宗の信者、茂平夫妻が建てた。保土ヶ谷出身のコラムニスト・青木雨彦氏の句碑がある。

← 7. 天徳院
開山は安土桃山時代。本尊は運慶作といわれる地藏菩薩坐像。土地の豪族、小野筑後守が帰依して建立した。

← 9. 遍照寺
本尊の薬師如来像は横浜市指定文化財。念仏百万遍の供養塔や、岡野新田を開拓した岡野家の墓所がある。

11. 御所台 (政子)の井戸
北条政子が鎌倉への途中ここで休んで井戸の水を使ったといわれる。明治天皇が本陣でご休憩された際にもこの井戸の水が使われたという。



← 4. 神明社
平安時代末、当地は伊勢神宮の御領地として寄進され「榛谷御厨」と呼ばれ、その鎮守として神明社が建立された。現在の神殿は平成10年に竣工。ご祭神は天照大御神。

← 5. 香象院
開山の年代は不詳。保土ヶ谷宿で最大の寺子屋があり、明治6年(1873)に保土ヶ谷小学校の分校となった。保土ヶ谷郷土史家・磯貝正氏の功績を称えた碑がある。

12. 北向地藏 →
金沢道と弘明寺道 (鎌倉下の道の名残か?) の分かれの辻に道標を兼ねてお地藏様が北向きに建てられた。

「宿場の施設とその役割」
【見附】宿場の門の役目で上方見附と江戸方見附がありその間を「宿内」という。要人を宿役人が見附で迎え、大名行列はここから威儀を正して進んだ。(見付とも)
【助郷会所】宿場で賄いきれない人馬を周囲の村から動員する「助郷」という制度があり、その語源である。
【高札場】幕府の掟やお触れを張り出す所で宿泊代や人馬代も示されていた。
【一里塚】街道の両側に行程の目安として、一里ごとに小高く飯盛り宿と平宿の区分があった。



← 2. 橋樹神社
江戸時代は牛頭天王社といいう天王町の由来である。明治初年に橋樹社、大正10年(1921)に現在の橋樹神社となった。本殿の裏手には横浜市内最古といわれる寛文9年(1669)の銘が刻まれた青面金剛庚申塔がある。



← 3. 帷子橋跡モニュメント
昭和39年(1964)の帷子川の河川改修以前は、今の天王町駅前公園に旧帷子橋が架かっていた。(広重の浮世絵には「新學橋」とある)

